

市民活動をサポートする「総合的」中間支援組織 特定非営利活動法人 シーズ加古川

東播磨のボランティア 活動交流拠点

設立から10周年を迎えたNPO法人シーズ加古川は、理事長の田中茂さんが阪神・淡路大震災時に子ども心のケアをする活動をしながら、ボランティアコーディネート拠点づくりに動いたことがきっかけで誕生した。当時は、それが中間支援だとは思ってなかったという。

平成21年から県立東播磨生活創造センター「かこむ」の運営を受託。「こむ」で「かこむ倶楽部」というボランティア登録

制度をスタートし、現在では地域活動やNPO、趣味・サークル活動など340もの登録団体が活発に活動する東播磨地域の一大活動交流拠点となっ



スタッフが迎える広々とした受付

ている。

法人のもう一つの拠点、JAビルでは、「若者しごと倶楽部」と「生きがいしごとサポートセンター」を運営。仕事を通して自己研鑽し、自分の人生をデザインしていける人材の育成に力を入れている。

被災地「岩手」の 中間支援をサポート

このたびの東日本大震災では、岩手県への支援活動を行ってきた。7割が山岳地帯である岩手県は北海道に次ぐ広さで、4月初旬に訪れ

た田中さんは、復旧作業の進み方に宮城県と大きな差があるのを感じた。

地理的要件などでボランティアが入りにくい県北部の山田町災害ボランティアセンターを拠点とし、センターの支援や仮

設住宅でのコミュニティーづくりに取り組んだ。その中で、地元の方とのコミュニケーションが適切な支援に欠かせないと痛感した。

緊急的な支援活動に一定の目途がついたため、今後は中間支援組織としての強みを生かし、まちづくり協議会や新しい中間支援NPOを立ち上げようという被災地での動きをサポートしていく予定である。

自治意識が醸成した 元気なまちに!

「シーズ加古川は、NPOのサポートセンターでもあり、『まちづくり』をする法人でもある」と語るのは、事務局長の柏木登起さん。柏木さんは、「NPOやボランティアだけでなく、地域づくりや地縁活動もサポートする中間支援でありたい」という思いから「総合的」中間支援と表現する。「東播磨地域のみんなと一緒に」『かこむ』を運営



イベントや展示ができるスペースも

していくことによつて、自分たちのまちは自分たちの責任とするという自治意識の醸成を図り、まちを元気にしたいと意欲を示した。

NPO法人シーズ加古川
兵庫県加古川市加古川町篠原町111
☎079-422-0402 FAX079-421-0407
<http://www.npo-seeds.jp>
東播磨生活創造センター「かこむ」
☎079-421-1136
生きがいしごとサポートセンター播磨東
☎079-427-4075
若者しごと倶楽部サテライト播磨
☎079-423-2355